

樹皮利用でできるボイラー

ワールドテクノ

乾燥コスト減に効果大

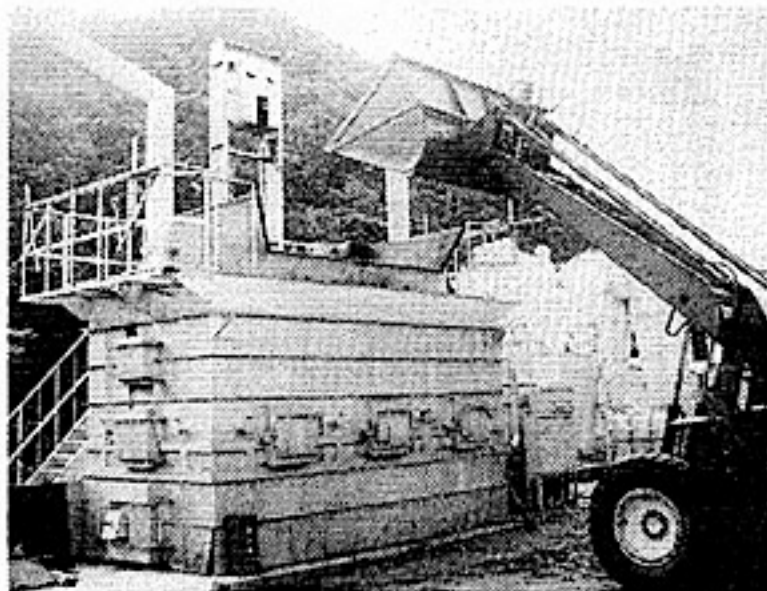
ワールドテクノ（広

島市、神垣茂社長）

と燃焼炉上から投入する。

は、ダイオキシン類対策特措法の規制を受けない中小型の焼却炉や木屑を燃料として有効利用するボイラー等を販売。木質廃材の燃焼と効率的な熱利用のノウハウには長年培った経験と異業種を含めたユーザーからの支持という裏付けがある。

同社の木屑焚きボイラーは、定量機を備える自動投入型のRV型



一度に最高18㎡の樹皮を投入できるRG-5000型

RV型は粉碎した木屑をサイクロンで飛ばして燃やす一般的なものの。木工所や製材所、集成材メーカーに多い。人的な投入が必要なRG型は「逆燃ガス化方式」と呼ばれるもので、木屑や樹皮を粉碎せずにそのまま燃やせるのが特徴。

り、大量の蒸気を作りながらボイラー技師免許や定期検査の費用も要らない設備となる。RG型ボイラーの能力は1時間の蒸気発生量2000〜20000kg。

排気側から強制的に吸気するため炎が燃焼筒から下向きに燃える。その熱で積み重なった木屑が徐々に下に落ちながら乾燥するため効率良く燃える仕組み。燃えにくく製材所等で

最近石油の高騰で乾燥コストを下げたいとの依頼が増加。樹皮処理に費用が掛かる事業者なら燃料節減と合わせて3年で元が取れるという。同社は、ボイラー等の製造をワールド熱学（福山市）に委託して

が燃料として利用でき。構造上、黒煙が出ず、ダイオキシン抑制にも理想的な燃焼と言われている」（神垣社長）。

（福山市）に委託しており、ワールド熱学の総発売元として2000年に設立し、現在は広島の本社のほか奈良・岐阜、滋賀、九州に拠点を置いて営業している。同社のホームページは<http://www.worldtekuno.com/>。

これらの燃焼炉に蒸気発生量1ト未満の還流ボイラーを複数従連で設置することによ

る。同社のホームページは<http://www.worldtekuno.com/>。